

ULT通信

2013.9.9号 / vol. 41 発行 / ULT 図書館司書

二学期
開始!

9/1「防災の日」に合わせて「防災」特集です。
防災や震災に関する本でULTにあるものを紹介します。
常日頃からの防災の備えなどについて再確認しましょう。

【特集】

防災



■風化させないために、当時のことを振り返る

「仙台ぐらし」伊坂幸太郎

仙台在住のベストセラー作家・伊坂幸太郎の、震災後初のエッセイ集。

「ボランティアナースが綴る東日本大震災」キャンナス編

「TSUNAMI 3・11」豊田直己編

「わたしの3・11」茂木健一郎編

■震災の後に書かれた物語を読む

「神様 2013」川上弘美

1993年に書かれたデビュー作「神様」が、
2011年の福島原発事故を受け、新たに生まれ変わる。

「想像ラジオ」いとうせいこう

耳を澄ませば、彼らの声が聞こえるはず。
ヒロシマ、ナガサキ、トウキョウ、コウベ、
トウホク…。生者と死者の新たな関係を
描いた世界文学の誕生。(購入予定の本です)

ULT NEWS

●“早朝開館”が始まります!

秋は読書の季節! 去年、密かにw好評だった「早起きULT!」を実施します。9月~12月の金曜日(一部除く)朝の8:00~8:35、ULTが利用できます。心静かに朝読書・朝自習などいかがでしょうか? 詳しい日程は、教室のポスターをチェックしましょう。

7・8月の新着資料は162点。
一部抜粋でお知らせします。

↓オーストラリアの本、増えてます♪
修学旅行に行く前に読んでおくと◎

新着案内

タイトル	著者名	請求記号
オーストラリア建国物語	リチャード・エヴァンズ他著	271-Ev
オーストラリア(地球の歩き方 '12~'13)	『地球の歩き方』編集室著作編集	297.1-チキ-2012
オーストラリア(わがまま歩きツアーズ)	ブルーガイド海外版編集部編	297.1-フル
資源争奪戦時代:なぜ今オーストラリアか?	田中豊裕著	334.7-タ
オーストラリアメルボルン発:短編小説集	久保田満里子著	913.6-クホ

↓日本についてアレコレ。

タイトル	著者名	請求記号
大阪アースダイバー	中沢新一著	216.3-カ
2013年の論点100:文藝春秋オピニオン	文藝春秋編	304-フン-2013
日本国勢図会 2013/14 第71版	矢野恒太記念会編集	351-ニホ-2013/14
レンズが撮らえた幕末の写真師 上野彦馬の世界	小沢健志監修	740.2-オサ
川口の匠	川口市立アートギャラリー・アトリア企画・編集	750.2134-カワ

■まずは知っておきたい!

「大地震に備える [DVD]」東京書籍

中学向けではあるが、学校にいるときの行動の仕方など
とてもわかりやすいです。(上映時間 25分)

「一億人の防災ハンドブック」青山口監修

「これからの防災・減災がわかる本」河田恵昭

「防災・救急に役立つ日用品活用法&ロープワーク 新版」羽田道信

■もしも、その日が来てしまったら…

「地震ビフォー&アフター」

「地震イツモノート」地震イツモプロジェクト

「大震災発生!」山村武彦

「放射能地震津波正しく怖がる100知識」河田恵昭

家庭に一冊!自分と家族を守る、安全・安心防災マニュアル。

「あなた・家族・職場を守る生き残りハウツー」望月利男監修

■振り回されない・振り回さない、正しいメディアの使い方

「緊急地震速報」渡辺実

「災害とソーシャルメディア」小林啓倫

「震災に負けない! Twitter・ソーシャルメディア[超]活用術」

新しい情報インフラを考える会

コラムde11

第41回は、笹木萌(メガネ)が担当です。

お題は、「寂しい気持ちになる本」。寂しい…心細い感じ…、考えていてふと思いだしたのは、芥川龍之介の『トロッコ』です。

主人公の良平(8歳)は、工事現場でトロッコを見るのが好き。山でトロッコに土を積んで工事現場まですべり下ろし、空になったトロッコを人力で山に押し上げ、また土を積んで下ろし、の繰り返し。良平は、一度でいいからトロッコに載って斜面をすべり下りてみたいなあ、トロッコを押し上げて山に登ってみたいなあと思っています。ある日、やさしそうな工事のおにいさんたちがトロッコを押ししていたので、良平が「押しやろうか?」とお手伝いを買って出ると(本当は自分が押ししてみたいだけですけど)、「押ししてくれ」と返されます。喜び勇んでトロッコを押し、斜面を下り、また押し上げて、願いがかなってうれしい良平ですが、気がつくはずいぶん遠くまで来てしまっています。辺りはだんだん暗くなり、良平は、お兄さんたち早く帰って言ってくれないかなあ、とじりじりしてきます。そんな時かけられた言葉は、「われ(=お前。良平のこと)はもう帰らな。おれたちは今日は向こう泊まりだから」…。そのときの良平の衝撃たるや! 暗くなりつつある道を、これまでは来たこともないような遠い距離、一人で帰らなければならない心細さ。それまでトロッコに乗って最高潮だったところから、急転直下の寂しい気分!

こどもの頃って、こんなふうにはっきりと一気に落ち込む、みたいなことが多かった気がします。熱中しやすいからですかね? 楽しくて騒ぎすぎて大人に怒られてシュンとしたり、遊びに夢中で気づいたら暗くなって急に心細くなったり…。良平少年の気持ち、わかるなあ! と、『トロッコ』は印象深い一編です。

次回のお題は、「その感覚、わかる…!」と思うシーン。あるある、わかるわかる、というシーンにぶつかると、読書がより楽しくなりますね☆

↓魅力的な作家人、集結。

タイトル	著者名	請求記号
空飛ぶ広報室	有川浩著	913.6-アリ
神様2011	川上弘美著	913.6-カワ
遠野物語 remix	京極夏彦著	913.6-キヨ
第二音楽室	佐藤多佳子著	913.6-サト-1
オプ・ラ・ディオ・ラ・ダ:東京バンドワゴン(集英社文庫)	小路幸也著	913.6-シヨ-6
海賊とよばれた男 上・下	百田尚樹著	913.6-ヒヤ-1,2
空白を満たしなさい	平野啓一郎著	913.6-ヒラ
老人賭博	松尾スズキ著	913.6-マツ
万能鑑定士Qの事件簿 XII(角川文庫)	松岡圭祐著	913.6-マツ-12
たまごを持つように	まはら三桃著	913.6-マハ
色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の旅	村上春樹著	913.6-ムラ
嵐のピクニック	本谷有希子著	913.6-ホト
大泉エッセイ:僕が綴った16年	大泉洋著	914.6-オオ
社会人大学人見知り学部卒業見込み	若林正恭著	914.6-ワカ